

【全国納税貯蓄組合連合会会長賞】

『国民一人一人』の豊かな人生のために」

滑川市立滑川中学校二年 開田 結衣

「この子にもいろいろな人と関わらせたい、教育を受けさせたい。」

という、ある母親の訴えから、祖母が理事長を務めるこども園の奮闘は始まった。この訴えは、園児の妹が医療的ケア児である母親によるものだ。

医療的ケア児とは、様々な医療機器を使用してケアを受ける児童のことである。日本の小児医療は世界でもトップレベルだが、支援体制はそうではない。そのため、救える子供の命は他の国に比べて多いが、その分、重い障害を持って生まれた子供は、保育や教育を十分に受けられていないという課題を抱える。

そのような中、医療的ケア児の健やかな成長と、その家族を支えることを目的とした「医療的ケア児支援法」が令和三年に制定された。同時期に、祖母や園の職員が医療的ケア児を受け入れるために様々な準備を行うことになった。

しかし、医療的ケア児を園で受け入れた実績の少ない私の県では、医療的ケア児についての知識が豊富とは言い難く、園で受け入れることに抵抗が大きかった。医療的ケア児を受け入れるには、吸引器や酸素吸入器、人工呼吸器等の施設的な環境整備が必須だ。また、元々対象児をケアしていた訪問看護師からアドバイスを受けたり、新たな専属看護師を雇ったりする人的な環境整備も重要な要素だ。

さらに、祖母は医療的ケア児の保護者にも働く場を提供したいと考え、自分の園で保育士や保育補助として雇い、我が子のそばで安心して働けるようにすることで、家族そのものを支えようと力を尽くした。

前例があまりないことを実行するのは、とても大変なことだったと思う。私は祖母に、「たくさんの資金が必要だったでしょう？」

と尋ねると、祖母は、

「それもこれも国や県、市の税金、つまり皆さんのおかげだよ。」

と話したのだ。初めは理解できなかったが、これらの医療機器や人件費の全てが、国や県、市からの補助金、つまり、国民が支払う税によって賄われているということを知った。

税の徴収から主な使われ方まで学校の授業で習ってきたが、正直、中学生の私にとって関心の薄いものだった。しかし、祖母の話を聞いて考えが変わった。国民が納める税のおかげで、常に医療的なケアが必要な子供が他の園児と関わりながら充実した生活を送ることができる。そして、その家族のサポートにも繋がる。様々な用途に使われる税は、たくさんの人の生活を支えるだけでなく、社会的に弱い立場にある人に寄り添い、一人一人のニーズに合わせて生活を支えるために、重要な役割を果たしているということに気付いた。

税とは、「国民全体」はもちろん「国民一人一人」の豊かな人生のためにあるものだということを心に留めて、関心を高めていきたい。